

奇妙な姿をした深海魚の新種 2 種を発見！

— 上向きの双眼で何を見る？ 小さな深海魚ヒカリデメニギス —

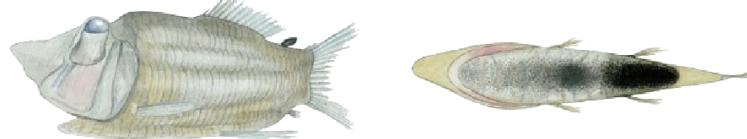
概要：千葉県立中央博物館の宮 正樹（生態・環境研究部長）らの研究グループは、オーストラリア沖合の西部南太平洋で行われた調査により採集された魚類の中から、深海性デメニギス科ヒカリデメニギス属（新称）の新種 2 種を発見しました。デメニギス科魚類は、そのほとんどが体長 10 cm に満たない小さな魚で、スポットのような細長い口に上を向いた双眼鏡のような眼をもつ、奇怪な姿をした深海魚の一つとして知られています。デメニギス科に含まれる 5 つの属のうちの 1 つ「ヒカリデメニギス属」（既知種は 1 種のみ）は、体の腹面が「靴底」のような奇妙な形をしており、彼らはこの靴底構造内部にある発光腺から放たれる光を上向きの眼で見て、仲間同士のコミュニケーションをとっていると考えられています。本研究では、今回採集された新鮮な標本に基づきヒカリデメニギス属の靴底構造腹面の体表に見られる色素斑の違いを比較検討したところ、新たな 2 種を発見することができました。また、デメニギス科全種の遺伝子の配列（ミトコンドリアゲノムの全長配列）を比較したところ、今回の形態に基づく発見を追認する結果を得ました。この色素斑の違いは新鮮な標本でしか観察できないことから、今後新たに採集された深海魚から新種が発見される可能性が高まると考えられます。

本研究成果は 8 月 10 日にオンライン・ジャーナル *PLOS ONE* で公開されます。これら 2 新種のタイプ標本（新種の基準となる標本）は、千葉県立中央博物館で開催中の平成 28 年度企画展「驚異の深海生物 — 新たなる“深”世界へー」で論文発表当日（8 月 10 日）から展示します。

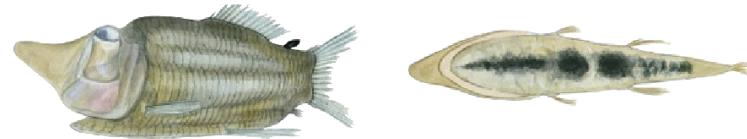
ヒカリデメニギス（既知種）



ハイイロヒカリデメニギス（新種その 1）



クロヒカリデメニギス（新種その 2）



ヒカリデメニギス属 3 種の側面図と腹面図。腹面の黒色素斑の違いにより 3 種は明瞭に識別できる。

論文：Poulsen, J.Y., Sado, T., Hahn, C., Byrkjedal, I., Moku, M., and Miya, M. (2016) Preservation obscures pelagic deep-sea fish diversity: Doubling the number of sole-bearing opisthoproctids and resurrection of the genus *Monacoa* (Opisthoproctidae, Argentiniiformes). *PLOS ONE* 11(8):e0159762 doi: 10.1371/journal.pone.0159762